

## 「図書館に関する科目」と「司書教諭講習科目」の 講義改善に関する取り組み

著者	後藤 敏行
内容記述	第4回みちのく図書館情報学研究会 2014年6月21日（土）東北大学
発行年	2014
URL	<a href="http://hdl.handle.net/2241/00121565">http://hdl.handle.net/2241/00121565</a>

## 「図書館に関する科目」と「司書教諭講習科目」の講義改善に関する 取り組み

後藤敏行

(日本女子大学 家政学部)

### 1. 本発表の目的

司書・司書教諭等の科目の、講義改善の取り組みの紹介と検討

\* 教育については、単なる文献検索法や図書館活用法を超えた情報リテラシー系の授業を実践中、ゼミでは年1~2回ゲストスピーカーを招へいするようにしている等、いろいろあるが、本発表は講義科目に焦点を当てる

### 2. 背景

教育への取り組みは大学教員の業績として評価されにくい(研究とはみなされない、教育業績を評価する手法が確立していない)、ともかく、納得いくまで準備した授業をしたかった

### 3. その背景

前任校の短大時代(2006-2008)、博士の学位取得を目指して大学院に通っていた。ひとことで言えば修行時代だった(今もだが)  
=手は抜いていないし、教えるべきことは教えたが、授業準備の時間は限られていた

4. 現任校に着任後、時間のやりくりは今も大変だが、いろいろ工夫した  
→方針・具体的内容は以下の通り

### 5. 方針

講義は準備がすべて。教室に入る前に決着をつける。どこでどういうギャグを言うかも考えておく

<理由>

(1) 経験上、事前にコストをかけるほど上手くいく。事前の努力は見えなくとも受講者に伝わる。授業評価アンケートも良くなる

(2) 発表者の性格(好み)

\* 準備しなくても上手くいった場合→それまでの人生経験全般が準備になったのだらうと思う。準備なしで講義が上手くいくことはない、と考えている

\* 準備とは、最低限、担当科目に関する各社のすべての教科書を参照して講義を組み立てること(自分ルール)

## 6. 具体的内容

6.1 手書きの板書でなく、ワードファイルをスクリーンに投影(別ファイル参照)

- ・講義中の時間節約のため。手書きよりデジタルが良いと考えるわけではない
- ・PPT でなくワード

<理由>

フレーズでなく文章(所々穴埋め)を投影する場合がある。特にその場合、ワードの方が PPT よりも自由度が高い

・フォント:MSP ゴシック, サイズ:40, 行間隔:46pt. 見出しはもっと大きい

\* フォントを HGP ゴシック E 等にしていた時期もあるが、上の方が見やすいと判断

・重要語句はアオ, 文脈上重要な記述は黄色

・図表, 画像, 動画を頻繁に使う。が、「図で覚える」的なやり方でなく、メインはテキスト(文章)。突き詰めれば、これも「経験上」と「発表者の好み」

・スクリーンと同内容のプリントアウトを自分用として持つ。補足説明について、何をどこで解説するか、あらかじめ書き込んでおく

6.2 ある概念や事柄を説明する際、例え話を工夫する(別ファイル参照)

6.3 賛否両論ある論点や解釈が複数ある事項については、多様な意見を紹介。必要と判断したら、自説だよと前置きした上で、自説を述べる

6.4 テキスト

・当初、スクリーンと同内容の穴埋めプリントを配布する等していた。が、受講者からの要望もあり、講義内容を教科書として出版した。ISBN を取得し、他社のテキストと

同様，生協等で販売

- ・出版すると，NDL に納本したり，公共・大学図書館が買ってくれたり，講義の外とつながるようになる→おもしろくなる
  - ・複数出版したが，形式は 2 パターン
- (1) テクストの所々が穴埋めになっている。講義のスクリーンで全文を公開し，受講者は穴埋め箇所を書き写す(別ファイル参照)
- (2) 一般的なテキスト。講義のスクリーンは，文章というよりも，重要語句・重要箇所のピックアップ(別ファイル参照)
- ・興味深かったこと: ある科目で，教科書も販売したが，全文をウェブ学習システムで同時に公開した。=「無料だが印刷して自分で整理・ファイリング」か，「有料だが印刷製本されている」か，好きな方を選んでもらった。結果，無料 7 割，有料 3 割の場合もあった。現場感覚としては，3 割もの受講者が有料を選ぶというのは多く，興味深かった。機会があれば再現性を検証したい

## 6.5 テクストの出版

- ・というわけでテキストの出版に取り組むことになった。上の経緯の通り教育成果であるが，ささやかな研究成果でもあるつもり。本発表のポイントの一つなので，もう少し説明しておく
- ・文章だけ書いて編集は業者に頼む，というやり方もあるかもしれない(この件にマッチする編集プロダクションは，探せばあるかもしれない)。が，どうせならいろいろ勉強しようということで，編集も自前でやった。印刷製本，販売は外注した
- ・ISBN 取得，フォント，文字サイズ，余白，文字数，行数等を工夫した。途中から，フォントはプロ用のもの(モリサワ)を導入した。Adobe Acrobat や Illustrator も導入し，表紙等を工夫した
- ・「出版物を納入した者に対しては，館長は，その定めるところにより，当該出版物の出版及び納入に通常要すべき費用に相当する金額を，その代償金として交付する」(国立国会図書館法 25 条 3 項)の運用の実際も勉強になった

## 7. 課題

### 7.1 講義スクリーン

前述の「(2) 一般的なテキスト。講義のスクリーンは，文章というよりも，重要語句・重要箇所のピックアップ」の場合，テキストと講義スクリーンを作るのが同一人物(発

表者)であることや、手書きでなくワードで事前に講義スクリーンを作ることがおそらく原因だが、「テキストと講義スクリーンが似すぎている。板書を写すことに意味はあるのか？」と思われやすい。初学者が書いて覚えるという意味があると思うものの、講義スクリーンをさらに工夫する余地があるかもしれない

## 7.2 講義の効果

ありがちな議論だが、上記の取り組みによって、具体的にどれほど受講者が知識を身に付けやすくなったか、身に付けたか？もっと言うと、受講者の今後にどれだけプラスになっているか？を客観的に評価することは、簡単ではない。馬鹿正直かもしれないが、現時点で言えることは、授業評価アンケートの結果(もちろん、受講者に評判の良い講義イコール本当に良い講義とは限らない、ということは念頭に置いている)や講義後の手応えから、効果は年々上がっていると感じている、ということである